



「駆逐艦 雪風 2605」(鉛筆)

有限会社 第一介護サービス 所蔵

駆逐艦「雪風」は、18隻建造された陽炎型駆逐艦の中で唯一、終戦時まで残存し“幸運艦”“栄光の駆逐艦”として、あまりにも名高い。陽炎型8番艦として昭和13(1938)年8月2日に佐世保海軍工廠で起工され、昭和15(1940)年1月20日に竣工、当初は「黒潮」「初風」と共に第16駆逐隊を編成しました。

「雪風」は大戦中、ソロモン海戦、コロバンガラ沖夜戦、マリアナ沖海戦、レイテ沖海戦、沖縄特攻作戦など主要作戦に参加し、陽炎型、夕雲型の僚艦が次々に失われる中、本艦のみ奇跡的に生き残りました。戦後は特別輸送艦に指定され、兵装を撤去して復員輸送に従事し、その後は戦時賠償艦として中華民国へ引き渡され「丹陽」として中華民国海軍の旗艦を務めました。

当作品は、「雪風」が戦艦「大和」・軽巡洋艦「矢矧」等と共に、沖縄へ出撃した天一号作戦時のワンシーンを描いたものです。昭和20(1945)年4月6日午後3時20分、戦艦「大和」は軽巡「矢矧」ほか、第41、17、21駆逐隊を率い、徳山沖を抜錨。第一遊撃部隊は沖縄に向け、豊後水道を南下します。作品に描かれたシーンは愛媛県の西端の佐田岬を望みながら航行する戦艦「大和」を、面舵を取り距離を取りつつ警戒航行を開始する場面です。いよいよこの後、艦隊は豊後水道を抜け第一警戒航行序列を形成、深島南端2.5カイリにおいて140度に変針、敵の潜水艦の活動する海域へと進んでいきます。

マストにかかる信号旗は「JJMD」で、「雪風」の艦名符字です。

ART STUDIO 楓 -fu-

<https://artstudio-fu.com>

<https://www.facebook.com/artstudiofu>